

国語 第1学年 ふたりで かんがえよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の2月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

身近な物の特徴を使った問題を相談して作る。思い付いた手がかりを順に言うだけにせず、相手の案を聞いて付け加えたり、理由を尋ねたりして話を続ける。単元の終わりに残すのは、相談して作った手がかりカード。友達案と、それを受けて付け足した案を区別して残す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕A話すこと・聞くこと(1)オ	オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

単元の目標

物の特徴を表す身近な語句を集め、問題の説明の中で使える。相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで話をつなげられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①物の特徴を表す身近な語句を集め、問題の説明の中で使っている。 （〔知識及び技能〕(1)オ）	①「話すこと・聞くこと」において、相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで応答している。（A(1)オ）	①学習の見通しを持ち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全4時間（話・聞④）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身近な物を題材に問題を聞き、手がかりになる特徴を見付ける。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本時）	○問題にする物を選び、相手の案を受けながら手がかりと出す順を相談する。	思①（発言・学習記録）
	3	○作った問題を出し合い、相手の反応を聞いて手がかりを直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	4	○友達の家を受けて話した言葉を振り返り、相談のよさを確かめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで話をつなげられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」 【めあて】身近な物の特徴を使った問題を相談して作る。 〈予想される児童の反応〉 ・その手がかりだとすぐ答えが出るから後にしよう。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （分）	○「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」 出題する役と答える役に分かれ、物の特徴を手掛かりとして伝える。聞き手は知りたい特徴を質問し、出題者はその質問に答える情報を付け足す。役を交代し、どのやり取りで物が分かったか話す。 〈予想される児童の反応〉 ・その手がかりだとすぐ答えが出るから後にしよう。 ・色だけでは別の物もあるから形も伝えたい。 ・友達の考えを聞いて使い方の手がかりを思い付いた。	問題にする実物を見ながら、色・形・使い方などの特徴を言葉にする。教師が相手の案を受けて質問するやり取りを示す。言葉が出にくい児童には特徴の絵カードを用意する。 想定する難しさ：それぞれの案を交互に言うだけで応答にならない。答えを当てる速さだけを競う。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで応答している。（質問と付け足しの応答の観察）
まとめ （分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の考えを聞いて使い方の手がかりを思い付いた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童

の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、それぞれの案を交互に言うだけで応答にならない。答えを当てる速さだけを競う。この場合は、問題にする実物を見ながら、色・形・使い方などの特徴を言葉にする。教師が相手の案を受けて質問するやり取りを示す。言葉が出にくい児童には特徴の絵カードを用意する。おおむね満足できる状況は、相手の出した手がかりに関心を持ち、質問や付け足しで応答しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

相談して作った手がかりカード。友達の案と、それを受けて付け足した案を区別して残す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（1年）「1年下巻」103行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

